

2018 年度 小委員会活動成果報告

(2019 年 2 月 2 日作成)

小委員会名	熱環境シミュレーション小委員会	
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (熱環境運営委員会)	主 査 名：酒井 孝司 就任年月：2015 年 4 月 委員長名：岩田 利枝 主 査 名：尾崎 明仁
設 置 期 間	2015 年 4 月 ～ 2019 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	設置目的：熱環境シミュレーションのための先進アルゴリズムの検討・整理 初年度：熱環境シミュレーションに関わるアルゴリズムおよびデータの体系化 2 年度：シミュレーションソフトウェアのアルゴリズムおよびデータの体系化 3 年度：熱シンポジウム開催と、最新の研究成果の収集 4 年度：これまでの研究成果の整理と、ホームページ等による公開	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無： 主査：酒井孝司 幹事：西岡真稔 委員：石野久彌,武田 仁,宇田川光弘,松本真一,尾崎明仁,永田明寛,赤司泰義,森 太郎, 隈 裕子,小野浩己	
設置 WG (WG 名：目的)	温熱環境解析アルゴリズムの研究・開発 WG 建築物理モデルの体系化およびプログラムの開発と教育・研究・実務への活用	
2018 年度予算	160,000 円	ホームページ公開の有無： 委員会 HP アドレス： http://news-sv.aj.or.jp/kankyo/s13/index.html

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	1. 無し
講習会	1. 無し
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	1. 無し
大会研究集会	1. 無し
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	1. 無し
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	オフィスビル冷暖房負荷シミュレーション, オープンデータ活用法について, 事例を収集し, アルゴリズムやデータの体系化に関する情報交換が実施され, 当初の活動計画を概ね満たす成果が得られた。
委員会活動の問題点 ・課題	1. 特になし

2018 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>伝熱小委員会との合同委員会を3回開催(4回目を3/19に開催予定)し、以下の熱環境シミュレーションに関する検討を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不確実性を考慮した省エネ投資の経済性評価 ・積雪寒冷地における高性能住宅を対象とした暖房方式の比較と検証 ・フェノールフォーム断熱材の長期断熱性能推定に関する実験的検討 ・最近の気象データによる全国冷暖房負荷の変動 ・戸建住宅の断熱改修のための環境計画手法に関する事例的検討 ・最新の温熱環境基準の動向 ・パッシブタウンの建築物省エネ法による評価結果について ・最近の気象データによるオフィスビル冷暖房負荷シミュレーション ・軒裏換気方式における冬期の小屋裏温湿度の解析 ・オフィス空間を対象とした昼光導入・日射熱制御を両立するガラス・フィルム複合体に関する研究 ・樹脂製窓と躯体の間の線熱貫流率軽減手法に関する研究 ・北海道大学建築環境学研究室でのオープンデータ活用の取り組み 			

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価(シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など)に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。